

学校一礼

～自分を・人を・場を

『考える子』～

3月の正門掲示板

3月の正門掲示板は、今年度最後の月を締めくくりにふさわしく、担任の藤井先生と5年生が担当しました。



5年生一人一人から、6年生に向けてのメッセージで埋め尽くされています(カレンダーが小さくなっています)。やがて巣立つ6年生へ、これまで学校全体をリードしてくれたことへの感謝と、4月からは自分たちがそれを受け継ぐという決意があふれています。

6年生を送る会・遠足

10日(木)、6年生を送る会と送別遠足を実施しました。出発の前に、以下のことを子どもたちに話しました。

去年(令和2年度)は1年間の計画に、「お別れ遠足」はなかった。では、なぜ、お別れ遠足をしたのだろう。それは、「今年は4・5月が臨時休校でかんげい遠足ができませんでした。3月は『6年生を送る会』があるけれども、それを遠足にすることはできませんか。」と先生方が私に相談してこられたから。遠足を試みたら、「4月にするよりも、1年生が1年間でたくましく成長していて、こちらの方がいい。」という意見が多くあがった。そこで、今年度は最初から3月にお別れ遠足をするという予定ができ上がった。伊倉小の先生方は、いつもみんなのことを考えてくれる温かい先生たちだということ。

一つだけ、みんなに「ごめん」と思っていることがある。それは、今日の給食が「揚げパン」だということ。6年生に揚げパンを食べさせたかったなあ、というのが私の唯一の心残り。

ただし、今日は、感染防止の対策はしっかりとやってもらう。それができないならば、遠足は中止しないとイケない。感染防止を考えたながら、楽しい思い出の日にしてほしい。

遠足の前に、運動場で5年生の企画・運営による「6年生を送る会」を行いました。



事前に企画を練り、練習を重ね、当日は最初から最後まで、やる気に満ちた5年生の姿を見ました。

修了式、そして卒業式へ

23日(水)は、修了式です。通知表とともに「修了証」を渡します。義務教育においては「修了・進級」は当たり前と思われがちで、この修了証はあまり注目されない傾向があるように思います。しかし、わたしは、一つの学年の学びを修了するということは、とても貴重なことだと思っています。そのことを修了式で話したいと考えています。

そして、24日(木)はいよいよ卒業式です。小学校生活の終わり2年間がコロナ禍にありながら、6年生は様々な困難に打ち克ち、持ち前の明るさを絶やさず、行動で学校に活気をもたらし続けてくれました。だからこそ、卒業式は全力で祝いたいと思います。保護者の皆様と5年生と、教職員とで心に残る卒業式を実現させたいと思います。

久々に～校長室より～

3月上旬のある日、校地内を歩いていた時のこと。2時間目の授業を終えた1年生の男子数名が、靴に履き替えて元気に外に出てきた。「おはようございます。」まずは、自分からの元気なあいさつができた。その後、「校長先生、元気ですか。」
「お仕事、がんばってください。」
「おうえんしています。」次々と私へのエール。思わず私も、「はい。がんばります。」

7歳児が60歳を励ますという構図だ。いい意味で、昔では考えられない校長と子どもとの距離感の近さだが、そこには「失礼さ」を感じさせる要素は一切無い。むしろ、このような子どもたちとの日々のやりとりの楽しさや子どもたちの笑顔が、私に仕事に向かうエネルギーを与え続けてくれたのだとつくづく思う。

※この「学校一礼」は、行事等を取り上げながら、私が校長として大切にしていることや子どもに伝えていることを中心に記事を書くように努めてきました。伊倉の全家庭に、今の伊倉小の教育の方向性が少しでも伝わっていれば幸いです。この12号をもって、令和3年度の最終号とさせていただきます。ありがとうございました。